

自衛消防訓練の大切さ[備え]

毎年、火災によりたくさんの方の大切な生命が奪われています。

火災は1年間に6千件程度（東京消防庁管内）発生しています。

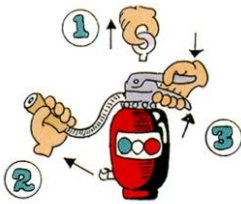
火災が発生しないようにすることと、火災から命を守るために、いつでも安全に避難できるように、火事になったらどうしたらよいか、訓練をしておくことが大切です。

消火器【操作要領ポイント】

①ピンを抜く

②ホースをかまえる =

③レバーをにぎる



初期消火のポイント

●周囲に火災が発生したことを知らせる。

消火器を取りに行く時、消す時には「火事だ！」と大声で叫ぶ。

●消火器を運ぶ時、ピンを抜かない。

ピンを抜いてしまうと、レバーがにぎれる状態になるので、運ぶ途中に誤って放射してしまうことを防止するためである。

●燃えているものをしっかり確認

- 燃えているものの3～4メートル手前から、煙に惑わされないように、燃えているそのものに対して放射する。
- 風がある場合は、風上（煙が流れてこない方向）側から放射する。

●消火器での消火の限界

- 炎が天井に届くまでを目安とする。
- 消火不能になった時のことを考え、避難路をふさがれないよう避難口を背面にする。

●粉末消火器は、手前から掃くように消火

粉状であることから、水のように浸透性がないので、消火した後は水をかける等して完全に消火する。

●強化液消火器は、燃えている面を手前から覆うように消火

強化液薬剤を棒状に放射するものは、電気が原因となる火災の消火の際に感電の危険があるので適さない。

*霧状に放射するものは電気火災に適應する。

●避難することが大切であることを知る

- 消火するときは、逃げ道を考えておくことが大切である。
- 自分の背の高さよりも高い炎を消すのは無理である。

種類 薬剤	粉末消火器	強化液消火器
薬剤量	1.5 kg以上	3.0以上
放射時間	約10秒～14秒	約16秒～40秒
放射距離	3m～8m	4m～10m

火事を知らせる

●「火事だー、火事だー」と大きな声で叫ぶ

火事を見つけた人、気付いた人は、誰かに気付いてもらえるまで、大きな声を出して知らせる。

●「ガン、ガン、ガン」と音の出る物をたたく

多くの煙、大きな炎を見て、びっくりして大きな声が出ないときは、バケツ、やかんや鍋など、たたくと大きな音が出るものを棒でたたいて知らせる。



119番通報訓練

(火災の場合)

●あわてず落ちついて正確に伝える。

- 聞かれた内容を一つひとつ正確に、落ちついて答える。

「東京消防庁の問いかけ」

『答える内容』

「火事ですか、救急ですか？」

『火事です・救急です』

「消防車・救急車が向かう住所を教えてください」

『北区王子〇丁目〇番〇号です』

「何が燃えていますか？」

『家が燃えています』

- 「火事」か「救急」かをはっきり伝える。
- 住所がわからない時は、建物の名称、近くの目標を伝える。
- 携帯電話を使用して119番通報する場合も、通報のやりかたは同じ。
- 公衆電話から電話するときは、緊急通報用ボタンを押してから119番通報する。



安全に避難する

姿勢を低くして、煙を吸わないことが大切

●姿勢は低く

煙がある中を避難するときは、煙を吸わないように姿勢を低くし、できるだけ床に近いところの空気を吸うようにする。

●ハンカチ、タオルで口と鼻をおおう

少しでも煙を吸わないようにする。

エレベーターは使用せずに階段で避難すること

●エレベーターは使わない

火事の際は、エレベーターが止まってしまうことがあるので、避難する時は階段を使う。

●防火シャッターに気を付けよう

大きな建物などでは、炎や煙が広がるのを抑えるため防火シャッターや防火扉が作動する。

避難するときは、炎や煙がない安全な方向に避難する。

防火シャッターや防火扉などが作動している最中は、挟まれないよう十分に注意する。

●階段や出口は避難方向を示す矢印を追う

逃げる人の絵が描かれている照明器具

避難する通路を示す「通路誘導灯」

：白地に緑色の逃げていく人の絵

避難する出口を示す「避難口誘導灯」

：緑地に白色の逃げていく人の絵

煙の動き・煙のこわさ

●煙の動き

煙は、階段などを伝わって上の方へ一気に広がっていく。

煙は燃えたものから発生するので暖かく、空気よりも軽いので天井や上の階へ上がっていくスピードが速い。

火災が大きくなる前の避難は、姿勢を低くすることで煙を吸わずに避難できる。

●煙が上がっていく速さ

階段など、たての空間を上昇するスピードは1秒間に3m～5m（50mを10秒で進む）

階段を上がる速さとどちらが早いだろうか…
煙より先に走って階段で避難できるだろうか…

●煙が横に広がっていく速さ

廊下など、横への空間を進むスピードは1秒間に50cm～5m（50mを50秒で進む）

●煙のこわさ

火事で亡くなる人の多くは、煙を吸い込んでしまい、避難できなくなって亡くなってしまふ。

煙には、部屋の中のプラスチックなどでできている物が燃えた時の有毒なガスなども多く含まれる。

火事の時に発生する一酸化炭素は、1回か2回吸い込むだけで危険である。